

容は理論・計算化学、生物化学、錯体化学と多岐にわたっていましたが、活発な質問や議論が多くあり、参加者の交流が深められました。特に近年、カセサート大学では生物化学分野の研究が発展してきており、生体系の分子シミュレーションや構造論に関して共通の興味が見出されました。

参加者はカセサート大学だけでなく、総研大・物理科学研究科と同様のMOUを締結しているチュラロンコン大学や、国立科学テクノロジー機構、また近隣の高校からの参加もあり、全体で約40名になりました。今回の合同会議では、過

去にタイから分子研を訪れた若手研究者や当時学生であった人達が自国で活躍し始めていることを実感できました。また、新たに分子研のPIの研究にふれることができた学生にとっては、国際的な視野を

持つ良い機会になったと思います。今後、EXODASS事業等を通して（特に総研大の学生として）、分子研で研究を行うといった交流が進むことを期待しています。

（江原 正博 記）



## E V E N T R E P O R T

### 担当教員 総研大アジア冬の学校

2013年度担当教員 総研大物理科学研究科構造分子科学専攻 准教授 正岡重行

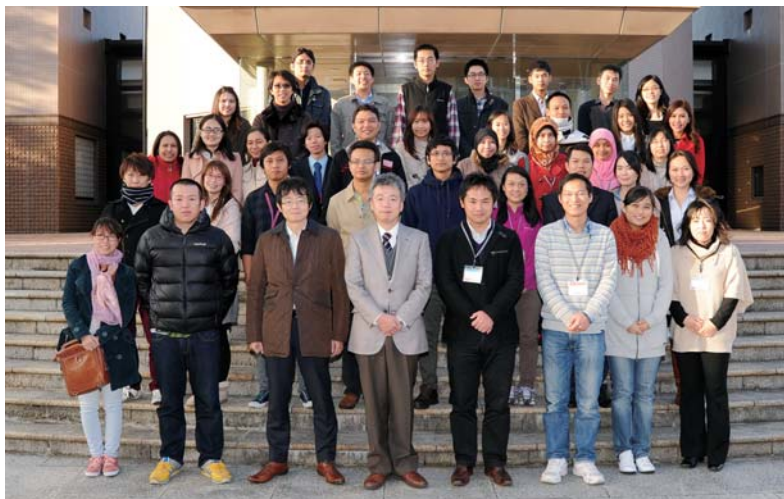
総研大アジア冬の学校が平成25年12月10日（火）から13日（金）にかけて岡崎コンファレンスセンターにおいて開催されました。分子研で行っている研究・教育活動をアジア諸国の大学生・大学院生および若手研究者の育成にまで拡大することを目的として、平成16年度に始まり、今回で10回目になります。アジア諸国から定員を大幅に超える応募を受け、書類選考の結果、17名の学生に参加いただきました。その国籍別の内訳は、タイ6名、中国2名、インドネシア4名、シンガポール3名、ベトナム1名、マレーシア1名でした。また、EXODASS招聘留学生が12名、日本国内からの参加者が14名あり、講師を除く参加者は合計43名でした。写真をご覧ください。

今回は、テーマを「Innovations and Challenges in Molecular Science: From Basics to Cutting-

edge Researches」とし、分子研の村橋先生、山本先生、江原先生に加え、核融合研から招待講師として長坂琢也先生をお迎えし、講義を行っていただきました。また、総研大の若き研究者として、金尚彬氏、望月建爾氏にもご講演いただきました。参加者によるポスター発表、EXODASS招聘留学生に

よるミニシンポジウムも行われ、充実した4日間となりました。

無事に冬の学校を開催できたのは、講師の先生方、もう一人の世話人の柳井先生、EXODASSの世話人である櫻井先生、総研大担当秘書の福富さんを始め、ご協力いただいた多くの方々のおかげです。深く感謝いたします。



## 担当教員 第10回夏の体験入学

2013年度担当教員 総研大物理科学研究科機能分子科学専攻 准教授 繁政英治

2013年8月5日(月)から8日(木)までの4日間、分子科学研究所において、第10回総研大夏の体験入学が開催された。本事業は、他大学の学部学生・大学院生に対して、実際の研究室での体験学習を通じて、分子科学研究所(総研大物理科学研究科構造分子科学専攻・機能分子科学専攻)における研究環境や設備、大学院教育、研究者養成、共同利用研究などの活動を知ってもらい、分子研や総研大への理解を深めてもらうことを目的としている。本年度は、定員を超える応募を受け、

選考の結果、28名の学生(学部学生21名、大学院修士課程学生7名)が参加することとなった。

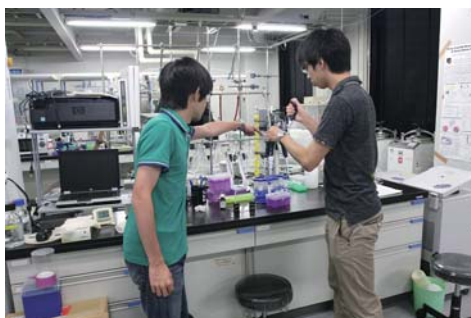
5日14時から明大寺地区でオリエンテーションを開催し、総研大・分子研の紹介の後、実施グループ毎に体験プログラムの紹介を行い、UVSORと計算科学研究センターの施設見学を実施した。夕方からは、職員会館において歓迎会を開催し、全参加学生に自己紹介を兼ねて、体験入学の抱負を語ってもらった。所内からも非常に多く参加いただき、100名を超えるほど盛況であった。6日、7日の2日間は、終日、各グループにおける体験プログラムの実施に割り当てられた。最終日の8

日には、2日間の体験プログラムの結果を個別に発表してもらった。多くの質疑応答があり、充実した体験プログラムであったことがうかがえた。

終了後に実施したアンケート結果では、実験系・理論系ともに研究体験が有意義であったとの回答が多数を占めた。また、大学と比較して、学生あたりの教員や研究設備が充実しており、研究環境として魅力を感じるという回答が多かった。一方、2日間の日程では時間が足りない、もっと実施期間を長くして欲しいという要望や、専門的

な知識など受講前の準備が足りなかった、初めての実験内容で体験プログラムが難しかった、などの意見もあった。総研大への入学を進路の選択肢として考えている学生が複数いたこともわかった。

最後に、本事業にご協力いただきました全ての先生方、関係者の皆様方、この場を借りて厚く御礼申し上げます。



実験風景



発表会



集合写真